

特殊教育諸学校における健康情報の管理

Management of Health Information on Special School

齋藤 美磨
Yoshimaro SAITO

1 はじめに

学校の保健室では、児童・生徒の健康に関する資料が山積され、整理することにより、児童・生徒の健康に多大の利益のあることは筆者が再三に渡り、学校保健学会、特殊教育学会に報告してきた処である。とりわけ、特殊教育諸学校においては、本人が自己の健康状態を訴えることができず、疾病・傷害を悪化させる場面も考慮させられる。もちろん、本人が自己の健康状態を把握し、異常があれば、適切な処置をとりうるように健康教育を行うことはいかなる子供であれ、必要のことではあるが、自己の身体の健全な姿を知らないいわゆる「健常者」の多いことも事実である。半健康をもって健康として、腰痛、肩凝り、不自然な姿勢をあたりまえのこととして受け止めている。

無理の無い自然体の身体を障害児・者に体験させ、違和感があれば、おかしいことを何等かの手段で訴えられるようにすることができなければ、それに代わるものとして障害児・者の周囲が観察し有効にその結果を利用しなければならない。いわゆる名人芸として、ある子供の健康状態を察知することのできる教師、親、同胞、友達がいるが、それが何であるか他者に伝えることができず。その教師だけの名人芸として一代で終わってしまうことが今迄であった。1996年の日本特殊教育学会の健康障害の分科会においても、この名人芸をいかに科学とするかに論議が集中し、情報機器の有効利用により、ある程度の名人芸が分析できることを、村上、齋藤によって発表されている。

保健室での情報は有効に活用すれば、児童・生

徒、特に心身障害児の今日の健康の予知はある程度可能であり、もし、何等かの不測の事態が起こっても適切な対応が可能となるのではないかと考える。本研究はその一環として山口県下の養護教諭のいる養護学校、盲学校、聾学校、またその分校を対象として悉皆調査を行い検討するものである。

2 目的

特殊教育諸学校の保健室における情報機器の利用状況と健康情報の保管、利用の実態を知り、健康情報をどのように情報機器を利用して処理したら良いかを検討する。

3 方法

質問紙(資料1)を特殊教育諸学校の養護教諭に手渡し、後日資料を含めて郵便により返送してもらうことによる調査を行う。

4 対象

山口県内の養護教諭のいる下記の特殊教育諸学校13校である。

視覚障害	山口県立盲学校
聴覚障害	山口県立聾学校
	山口県立聾学校下関分校
精神発達遅滞	山口大学付属養護学校
	山口県立宇部養護学校
	山口県立田布施養護学校
	山口県立下関養護学校
	山口県立岩国養護学校
	山口県立徳山養護学校

	山口県立萩養護学校
肢体不自由	山口県立防府養護学校
	山口県立周南養護学校
病 弱	山口県立豊浦養護学校

5 期 間

平成8年6月20日調査表配布

回収8年9月30日まで回収

6 結 果

調査表を13の学校に配布し13の学校から回収することができ、100%の回収率であった。この調査に関しては、山口県の特殊教育諸学校にいる養護教諭の悉皆調査となった。

特殊教育諸学校の児童・生徒の障害は多岐に渡り、近年全国的に盲、聾、養護学校の児童・生徒の障害は重度化と軽度化の二極に分かれ、特殊教育諸学校間の差が無くなりつつあるが、今回の調査において山口県にもその傾向が認められ、各学校において各種の障害に対応していることを示唆される。

1 特殊教育諸学校の中において、パーソナルコンピュータはすべての学校にあるが、保健室に専用のパソコンと日本語ワープロを持っているのは1校だけであり、代わりに日本語ワープロを使用しているのは5校である。保健室の機密を保ちながら専用の情報機器を使用できるとはいいがたい環境にあるといえる。しかし、利用できる機器は近くに存在しており、本人の意欲次第でいかようにも使用できるともいえる。ただ、養護教諭は、職掌の関係で長時間、情報機器のある部屋でもっている事のできないことから、何等かの使用に関する工夫が必要とする。

2 反面、学校内において情報処理に関心のある人がいない又は無記入は2校のみで、ほとんどの学校においては、情報機器に詳しい、または相談に乗れる人がいると考えられ、自分で保健室の情報を情報機器に入れようとするならば、

周囲の協力を得やすい状態であるともいえる。

3 養護教諭本人の情報処理の程度は、使えない7名この中の1名はワープロのみ使用できるとしている。教わりながら使えるは6名であった。本人の自覚として自由に使えるという人はいない。

反面、情報機器への関心は高く、家庭に持ち帰って処理したり、日本語ワープロで多くの仕事をこなしている人も見受けられる。

本来、情報機器の導入は、従来ある仕事の手順を合理化し、その入力等の作業の軽減を図る事によって、情報の量から質への転換がなされるものであり、現在の目的をもっての情報機器の利用可能性は高いと考えられる。

この意欲と実態を考慮すれば、なんらかの研究の機会を提供することは意義深いことである。

4 機器の互換性については、互換できない7名、大体互換できる4名、互換できる1名、無回答1名であり機器の構成とも関るが、有機的な運用の妨げとなっている。またこの事を自覚してもいないことは、今後何等かの形で、機器、媒体の互換性を知らしめることの重要性を示唆される。

5 機器の種類と媒体、ソフトをならべてみると次のようになり、機器としては、NEC PC9801とその互換機とMacintoshになり、市場の占有率と一致するものである。この後、更なる機器の発展にどのように対応するのかは、学校での、情報機器の利用の目的、能力によって決められるもので、常に新しいいわゆる最新機種に追われる事の可否も検討されねばならない。

パソコンのハードとしては結局NEC PC9801、EPSON-PC、Macintoshの三種類が出ているが、各機器の新旧もあり、同じメーカーといっても、全く同じと考えるわけにはいかない。

OSとしてはMS-DOS、WINDOWS3.1、WINDOWS95の三種があげられているが、これに

MacintoshのOSがある事になる。

ソフトとしては各種あげられ、これらが相互に、使用できているのかは今回の調査では不明である。使用しているソフトの多くは、日本語ワープロとして一太郎、表計算として、ロータス、エクセルをあげている。いずれにしても、実際の仕事は日本語ワープロ、表計算ソフトで多くの時間を使用し、他のソフトを使用する事はほとんどなく、あっても学校の中のシステムを利用することによりほとんどのことは解決するものである。また、学校間の協力でもっと複雑な問題も解決することになる。

問題を解決するためには、各自のいる環境でもっとも有効な機器を組合せ、利用できる物、人、環境によって考えればよい。

以下、記入されたソフトをそのまま示す。

一太郎・三四郎・花子・桐・エクセル・ハイパーキューブ・Lotus・マイクロソフトワークス・Candy・Visual BASIC・ハイパーカード・MMディレクタ・フォトショップ・ページメーカー・アドゼプリメラ・マイクロソフトオフィス・スーパーペイント・ファーストクラス

外部との交換媒体としては、3.5インチフレキシブルディスクであり、5インチをあげているところは無いが、8インチをあげているところが1校あり、過去のシステムの継続と切り替えの難しい事を示唆される。

なお3.5インチ2DDには640KBと720KB、2HDには1.2MBと1.4MBの2種類あり、相互の互換の問題がでてくることになろう。

ワープロとしては次の機種があげられているが、基本的に、パソコンのMS-DOSにテキストファイルとして互換をとれるものが大半であったが、一部現在の状態では互換不可能のものも認められる。基本的には、MS-DOSにテキストファイルとして互換を取れるものを、使用することが望ましく、今後の利用の形態が検討されねばならない。

反面、他との媒体の互換のできない機種を使用する事は、保健室の機密の保持には望ましい事であり、機密の保持と、汎用性と目的により使用する機種を選定をする事が望まれる。

ルポ・書院・EPSON WordBank・文豪Mini7・OASYS・PanaWord・TOSWORD

5 パソコン通信の利用については1校のみで、それも家庭に帰って使用しているという状態であった。

6 個人健康情報に関して

障害・疾病の傾向により一覧表とするものには次のものがあげられた。

- ・各障害によって必要な一覧
- ・児童・生徒疾病一覧
- ・服薬・通院調査
- ・てんかんを有する児童生徒一覧
- ・アトピーを有する児童生徒一覧
- ・神経科、精神科で治療を受けている児童生徒一覧
- ・腎臓疾患を有する児童生徒一覧
- ・心臓疾患を有する児童生徒一覧
- ・喘息を有する児童生徒一覧

保健調査票、健康の記録として次の2種類があげられている。

- ・個人の学校での記録としては児童生徒健康診断票
- ・問診票

一日の記録 分単位 てんかん発作の頻発児記録

一月の記録 日単位 てんかん児の記録
があげられ、何等かの統一的な書式が可能ではないかと考えられる。

この中で取り上げられている項目として、本人氏名、生年月日、保護者氏名、現住所、電話番号、勤務先電話番号

身障手帳（種 級）、療育手帳有（A・B）、病名、障害の部位、身体検査記録、主な病歴、既往症、予防接種、かかりつけの病院定期受診先、日曜の健康管理先、通院治療の状況、治療状況、服薬の状況、身体の状況としては、風邪をひきやすい、たびたび熱をだす、頭痛をおこしやすい、せきやたんがでる、だんだんやせてきた、つかれやすく元気がない、めまいをおこしやすい、息切れやどろきがする、顔や足がむくむ、腹痛をおこしやすい、尿がちかい、下痢をしやすい、便秘をする、乗り物に酔いやすい、目が赤くなりやすい、めやにがでる、涙がでやすい、物を見るとき目を近付ける、耳だれがでる、きこえがわるい、よく鼻汁がつまる、くしゃみ水ばな鼻づまり、よく鼻血がでる、よくのどがはれ熱がでる、声や言葉がおかしい、歯がときどき痛む、食べ物が歯にしみる、歯ぐきがはれて出血する、口が臭い、連絡欄等がある。

このなかに、以下の救急処置記録、保健室入室記録、家庭への連絡、医師への連絡、医師からの連絡、教室への連絡、寄宿舎への連絡等の保健室にかかわる全記録として、ここから必要部分をとりだし複写し、また元に戻すことにすることが可能となる。これを通常の紙による管理では色々の問題が生ずるが、電子的な記録様式と、紙のよる記録方式の併用で可能となる。これらを一貫したものにすれば、健康情報が有意義なものとなり、以降の記録すべてを包括する様式が可能となる。

救急措置記録は保健日誌に記入が主であったがこのほかに記録簿、傷病記録、救急処置記録表、救急処置の記録があげられている。

学校保健統計にかかわる集計

保健委員会資料を使用すると記入されているほかに、方法論としてワープロ、ロータス使用との報告も認められる。

家庭・医師・教室への連絡形式も重複しており、治療票、健康連絡簿、病棟連絡票、定期健康診断結果のおしらせ、歯科検診のおしらせ、耳鼻科検診おしらせ、_____の結果についておしらせ、寄宿舎・学校連絡票、主治医指示書について、主治医指示書、メモ等がある。また、形式にとらわれず、口頭、電話で簡便にしているところもある。ただ口頭、電話でも連絡すべき内容についての検討は必要である。また学級にたいしては健康診断学級一覧票を用意しているところもある。

健康情報の管理で困っていること

医療行為の範疇

情報の知りすぎ

パソコン使用能力の不足

予防接種記録の経歴調べ

パソコンを使用しての個人カードを知りたい

個人の健康カルテの作成に何が必要か

年度末の個人評価に苦労している

考 察

情報機器のこれからの使用

山口県における特殊教育諸学校の保健室において、情報処理の気運は見受けられる。専用のパソコンを使用している例は13校中2校に留まるが、個人の日本語ワープロを使用しているのは11校であり、日本語ワープロを利用するところから、情報処理に保健室の情報をのせる事を考えねばならない。

そのためには、日本語ワープロだけの閉ざされた使用ではなく、将来、他の日本語ワープロ、パーソナルコンピュータへと使えるようにしておく必要があるが、大半の学校では、機器の互換が十分に行われているとはいいがたい。これにたいしては、本研究室の機能を活かし、相互の日本語ワープロ、パソコンのデータ互換だけでも保証することを提案したい。また、無償のフリーソフトの提供もできる事を知らせる必要

があらう。

なお、本研究室で用意している変換ソフトは文豪、MYRIPORT、RUPO、CANOWORD、OASYS、書院からMS-DOSテキストファイルへの双方向変換であり、基本的にこれらの機種であれば文書に関しては可能である。

あわせて、今後、情報処理の研修の機会を持ち、日本語ワープロ、表計算の能力を持つならば、保健室における事務量が大幅に節減される事を示唆する調査結果であったが、機器の導入には一時的に、事務量の増大となることは必然的な事であり、安易な機器導入の計画はひかえねばならない。

健康にかかわる個人情報の管理に、各学校の工夫が見られ保健調査票2種類、健康の記録3種類、児童生徒健康診断票、問診票等の個人の健康情報を集約した個人データ、障害・問題別に一覧にした疾病一覧、服薬一覧の作成を行っているが、これは片方を作成したならば、もう一方が速やかにできる事が望ましく、これが発展し、家庭、教室、医師、寄宿舎等の連絡簿の原票となることが望ましい。これは日本の養護教諭全体で考えることであるが、最初に、健康問題ともっとも厳しい事態に直面している特殊教育諸学校の養護教諭と協力して、健康情報の原簿とそこからの流れを有機的に作成しなければならない。この時に問題となることは、全体の利益のための情報管理であってはならず、障害児が自己の健康のより良い姿を認識するための一助となるためにすべきものである。個人の健康情報の秘密は守られる事は当然のことであるし、本来の目的を離れて健康情報が他に流れるような事があることは厳に戒めなければならないし、そのシステムをはじめから機密に属する情報の安全性を考慮して組み込むようにしなければならない。

今後の課題

障害児の健康を管理するには、特殊教育諸学

校を含めて養護教諭相互の間で、健康管理のための案を持ちより、基本的な共有部分と応用部分、将来への発展部分を考え、汎用のソフト例えばロータス等と他の入力システム、日本語ワードプロセッサ等の利用を各学校の実状に合わせ導入の形態を考え、養護教諭の学習会により、利用方法の工夫を伝えあい、養護教諭総体の能力を高めることが出来る。

場合によっては、学校内でフレキシブルディスクに紙をそえて返書はフレキシブルディスクに書き込んでもらうことも可能となる。また、この情報の交換は、学校間、医療機関とではいわゆるパソコン通信によって養護教諭各自が学校の保健室、家庭にいながらにして可能とするものであるが、現在の山口県の特教育諸学校では未だ普及していない。今後の発展の期待される所であり、その折りには拠点となる養護教諭が情報の管理をすることによって、有用なものとなろう。このためには、特殊教育諸学校の養護教諭の情報処理能力を高めると同時により簡便に使用できる機器・システムの開発が必要となろう。

山口県内の公立学校パソコン設置は98%と全国平均をこすが(1996年11月10日朝日新聞)授業で活用できる教員は16%と低く、情報処理を担当できるような教育環境を発展させねばならない。

本研究を進めるに当たって、山口県立豊浦養護学校の横山智子養護教諭他、県内養護教諭諸先生のご協力に感謝する。

参考文献

- 村上由則、斎藤美磨 喘息児における呼吸機能の客観的測定値と主観的症状：特殊教育学研究 32巻1号19-25 1994
 斎藤美磨 汎用ソフトを利用した養護教諭の職務分析：学校保健研究特集1995
 斎藤美磨 心身障害児健康情報の管理6：日本特殊教育学会第34回大会発表論文集1996

SUMMARY

Management of Health Information on Special School

Yoshimaro SAITO

I investigate the health information and how to use computer in Special school on Yamaguchi prefecture.

There are 13 nurse teachers of special schools on Yamaguchi prefecture.

I get all questionnaires from 13 special schools.

All schools have personal computers, and use for education.

Some school's health room have a personal computer, and a Japanese word processor.

But many school's health room have not

personal computer.

Many nurse teachers think that they can not use full capacity of personal computer.

Many of them use computer with other person's assistance. But they want to know and to use computer.

Each school has each type of computer and software. Nurse teachers on special school in Yamaguchi prefecture have good ideas for health management on their school. For example, some nurse teachers made health investigation cards for their students. And they use someone's all health information and manage their health. But they only use for their school.

〈資料1〉 特殊教育諸学校に於ける健康情報の管理調査表

- 1 学校名
- 2 養護教諭名
- 3 学校住所
- 4 学校電話
- 5 教員総数（校長、教頭、教諭、養護教諭、他） 名
- 6 事務職員 名
- 7 その他の職員（看護婦、指導員、実習助手、栄養士、その他） 名
- 8 児童・生徒の障害の種類と人数

--	--

- 9 教職員の中で情報処理に関心のある人はいますか（いない いる 名）
- 10 養護教諭本人の情報処理の程度
（使えない 教わりながら使える 自由に使える）
- 11 学校にある情報機器について
事務用、教員用、学習用、保健室用の区別がありましたら分けて記入

パソコン 機 種 基本OS 使用ソフト 媒 体	
ワープロ 機 種 媒 体	

記入例 機 種 NEC-PC9801 FM IBM Mac等
 基本OS MS-DOS WINDOWS WINDOWS95等
 使用ソフト 日本語ワープロ（一太郎、松、ワード）、
 表計算（EXCEL、Lotus）、通信、データベース等
 媒 体 5インチ 2HD 2DD 3.5インチ 2HD 2DD

特殊教育諸学校における健康情報の管理

12 機器の互換性について（互換できない 大体互換できる 互換できる）

13 パソコン通信の利用（利用していない 学校で利用 家庭で利用）

14 次の健康にかかわる情報の管理はどのようにしていますか

（見本がありましたら同封してください）

14-1 個人健康情報

14-2 救急措置記録

14-3 学校保健統計にかかわる集計

14-4 家庭への連絡

14-5 教室への連絡

14-6 医師への連絡

15 健康情報の管理で困っていることはどんなことですか